



# 2017年12月期 中間決算説明会資料

2017年8月8日

株式会社ツバキ・ナカシマ

(東証一部 6464)



## 目次

1. 2017年12月期第2四半期実績 ..... P3
2. 米国NN社PBC事業の買収について ..... P14

### 「一球一心」



一つの球に一つの誠心、愛情をこめて鋼球を作り上げること。

### 「一精一誠」



誠は真心であり、精は精密・精神を意味する。仕事に真心を打ち込んで、魂のこもった精密で優れた製品を作り上げること。

# 東証一部上場(2015年12月16日)からの進捗



各戦略的取り組みの具現化により、順調に業容を拡大

2015年12月16日 東京証券取引所第一部への上場を実現

2016年10月27日 中期経営戦略の発表  
— 2019年度売上収益500億円 営業利益100億円目標

2017年7月10日 米国NN社よりPBC(Precision Bearing Components)事業  
の買収を発表

上場後のツバキ・ナカシマ成長戦略第2章として、更なる飛躍を目指す方針



# 1. 2017年12月期第2四半期実績



# 2017年12月期上期サマリー

中期経営戦略(2016年10月27日開示)の取り組みにより、マクロ影響を上回る成長を実現

外的要因



株式会社 ツバキ・ナカシマ

内的要因

工作機械関連は回復トレンド

自動車関連は概ね想定通りに進捗

対前年同四半期に比べて為替は若干の円安傾向

戦略的な取組の進捗によりマクロを超える売上成長

バランスシートマネジメントの強化によりフリーキャッシュフローが増加

原材料価格の上昇に伴う価格転嫁遅れや急激な生産増加対応により、売上成長に対してマージンは前年同期に対し若干のマイナス(対策実行中)

# 2017年12月期上期決算ハイライト



## 売上面

- 売上収益は、四半期ベース、半期ベースともに過去最高値を更新し、前年上期比12.1%増(為替換算影響を除き13.8%増)
- 中期経営戦略(2016年10月27日開示)の取り組みにより、マクロ影響を上回る成長を実現
- ボールビジネスは前年上期比11.6%増(為替換算影響を除き13.7%増)

## 収益面

- 親会社の所有者に帰属する四半期利益は前年上期比13.0%増(一時費用及び為替換算影響を除き12.3%増)
- 原材料価格の上昇に伴う価格転嫁遅れや急激な生産増加対応により、売上成長に対してマージンは前年同期に対し若干のマイナスとなったが、既に対策を講じており、徐々に正常化見込み

## キャッシュ面

- 継続的なバランスシートマネジメントの強化によりフリーキャッシュフロー29億円を創出(前年上期比19.3%増)

## 配当予想

- 中間配当は31円/株を9月1日に支払い
- 年間配当は会社予想通り64円/株を実施予定



## 2017年12月期上期連結業績

売上収益は前年上期比12.1%増(為替換算影響を除き13.8%増)の207億円を達成。当期利益は前年上期比13.0%増の23億円(一時費用及び為替換算影響を除き前年上期比12.3%増)

	2016年度 上期	2017年度上期					(百万円)
	実績	実績	為替換算 影響	一時費用	増減額 (除く一時費用 及び為替換算影響)	増減比 (除く一時費用 及び為替換算影響)	
売上収益	18,429	20,653	▲319	—	2,543	13.8%	
営業利益	3,557	3,460	▲143	▲356	402	11.3%	
営業利益率	19.3%	16.8%	—	—	—	—	
EBITDA	4,372	4,256	▲153	▲356	393	9.0%	
EBITDAマージン	23.7%	20.6%	—	—	—	—	
税引前利益	2,659	3,094	391	▲356	400	15.0%	
当期(四半期)利益 (※1)	2,014	2,276	258	▲244	248	12.3%	

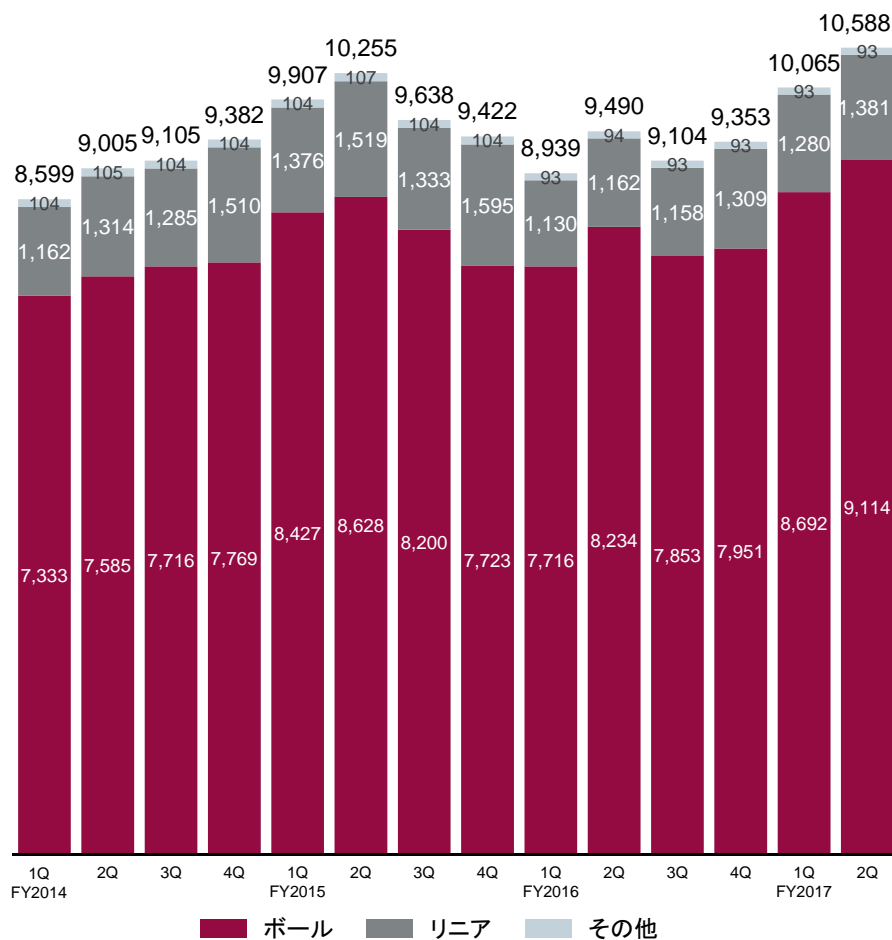
(※1)“当期(四半期)利益”は、“親会社の所有者に帰属する当期(四半期)利益”を記載しております。



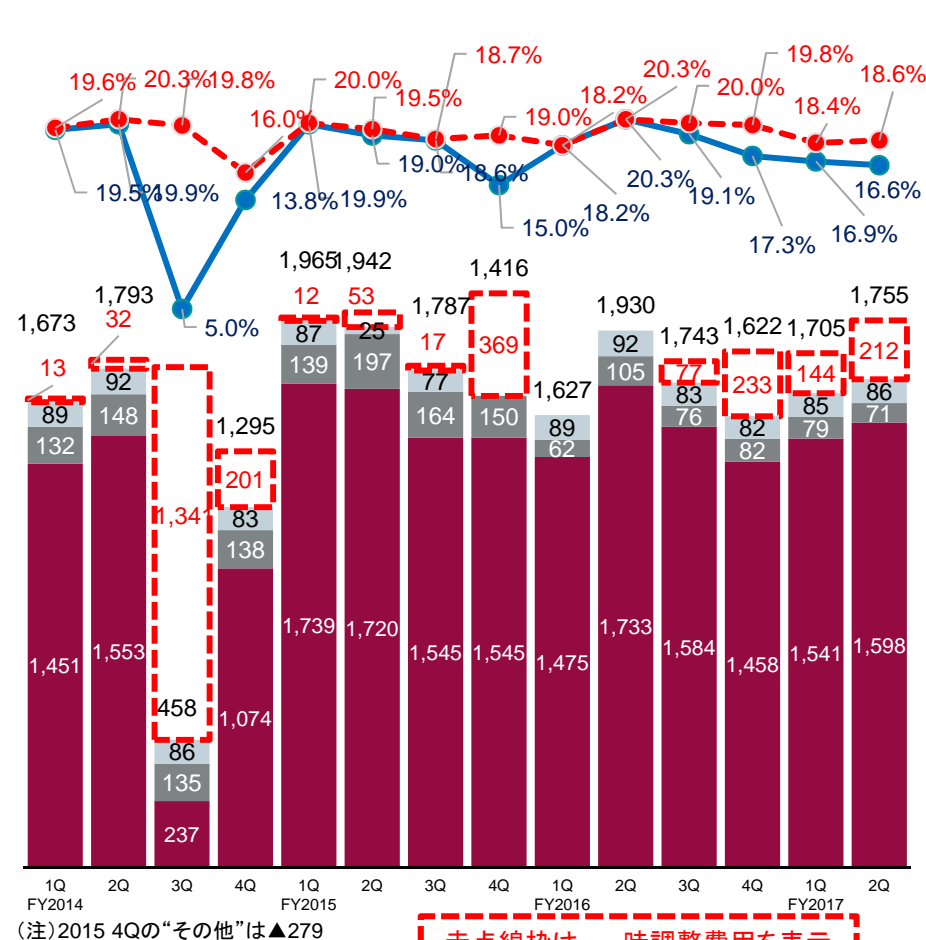
# 四半期グループ連結業績推移

四半期売上収益は過去最高値を更新し、利益面についても安定的に高水準を継続

売上収益推移 (百万円)



営業利益・営業利益率推移 (百万円、%)



(注)2015 4Qの“その他”は▲279

赤点線枠は、一時調整費用を表示



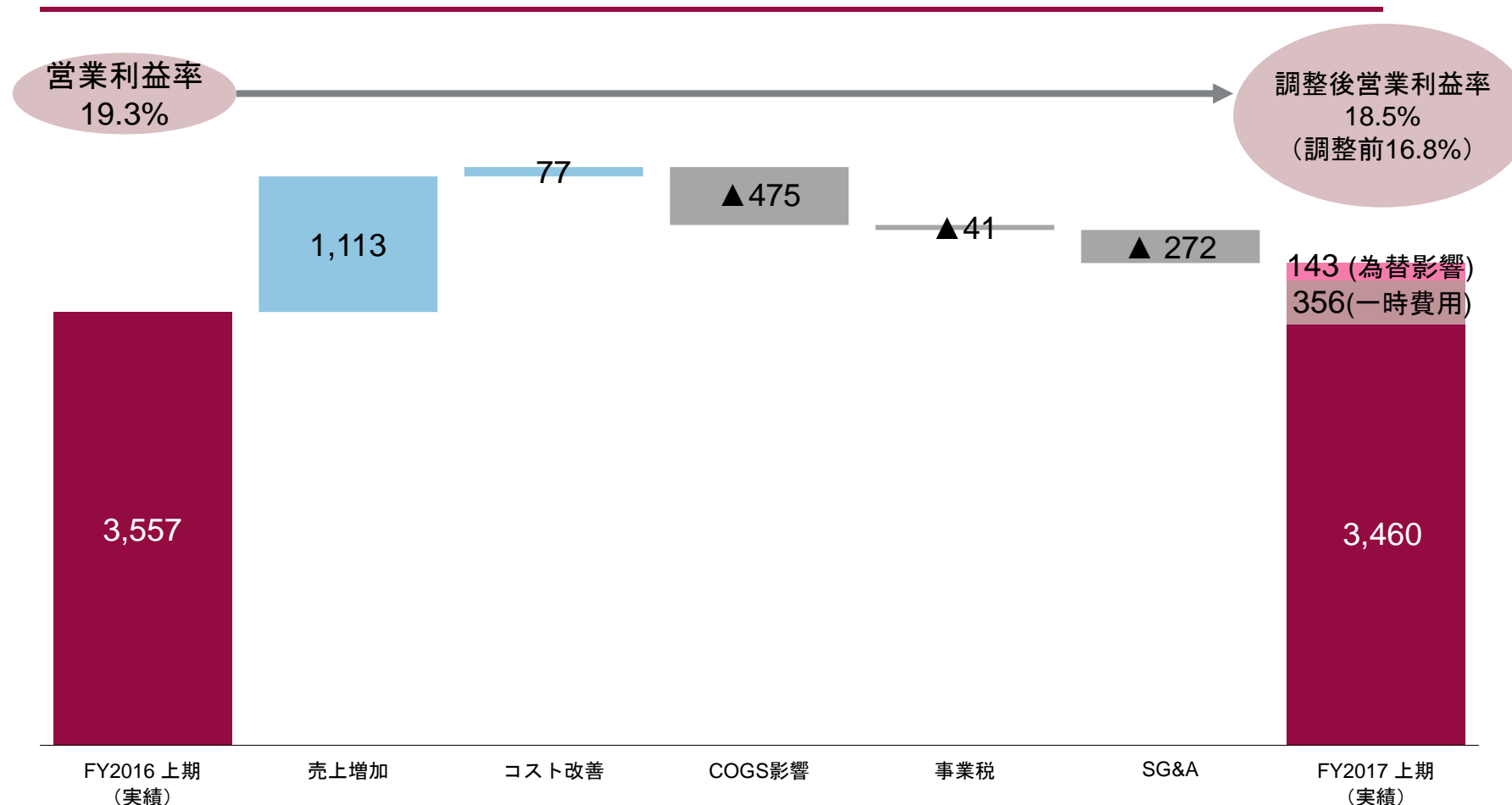


# 2017年12月期上期営業利益増減要因分析

営業利益は、一時費用及び為替換算影響を除き対前年上期比11.3%増。マージンは前年同期に対し若干のマイナス、既に対策を講じており、徐々に正常化見込み

### 営業利益(対前年同四半期比)

(百万円)



(※)調整後営業利益率は一時費用として主に“防災関連費用”及び“プロジェクト関連一時費用”を調整して算出しております。

# 2017年12月期上期セグメント別売上収益 前年上期との比較



ボールビジネス、リニアビジネスともに前年上期を大きく上回り順調に推移。四半期ベース、半期ベースの双方で、売上収益の過去最高値更新に貢献

(百万円)

	2016年度 上期	2017年度上期			
	実績	実績	為替換算 影響	増減額 (除く為替 換算影響)	増減比 (除く為替 換算影響)
グループ連結	18,429	20,653	▲319	2,543	13.8%
ボールビジネス	15,950	17,806	▲335	2,191	13.7%
リニアビジネス	2,292	2,661	16	353	15.4%
その他	187	186	—	▲1	▲0.7%

# 2017年12月期上期地域別売上収益(ボールビジネスのみ)

## 前年上期との比較



ボールビジネスにおける地域別売上収益においては、グローバルで順調に成長しつつ、特に欧州／アジア地域(中国+26.5%、インド+44.5%)での拡販が貢献

(百万円)

	2016年度 上期	2017年度上期			
	実績	実績	為替換算 影響	増減額 (除く為替 換算影響)	増減比 (除く為替 換算影響)
日本	6,124	6,470	—	346	5.6%
北米	2,865	3,065	15	185	6.5%
欧州	3,113	3,485	▲222	594	19.1%
アジア	3,848	4,786	▲128	1,066	27.7%

# (ご参考) 2017年12月期上期地域別売上収益 前年上期との比較



(百万円)

	2016年度 上期	2017年度上期			
	実績	実績	為替換算 影響	増減額 (除く為替 換算影響)	増減比 (除く為替 換算影響)
日本	8,525	9,092	—	567	6.6%
北米	2,865	3,065	15	185	6.5%
欧州	3,113	3,485	▲222	594	19.1%
アジア	3,926	5,011	▲112	1,197	30.5%

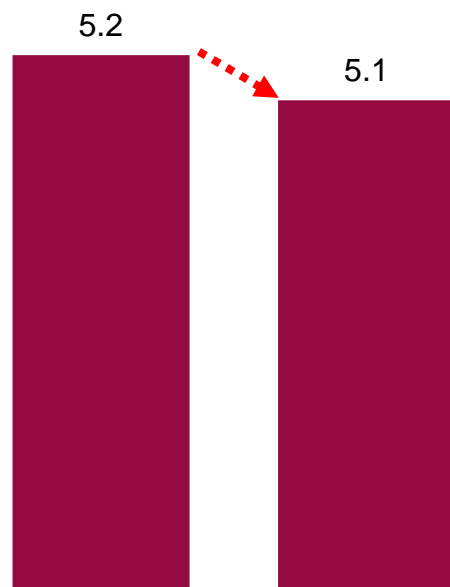


# BS／CFにおける業績

バランスシートの適正なコントロールにより、キャッシュフローが増加

棚卸資産回転月数(月)

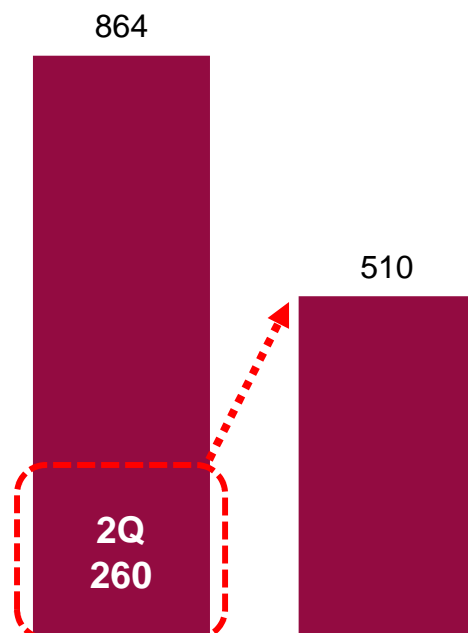
■ 昨年末実績を下回る



FY2016 FY2017 2Q

設備投資額(百万円)

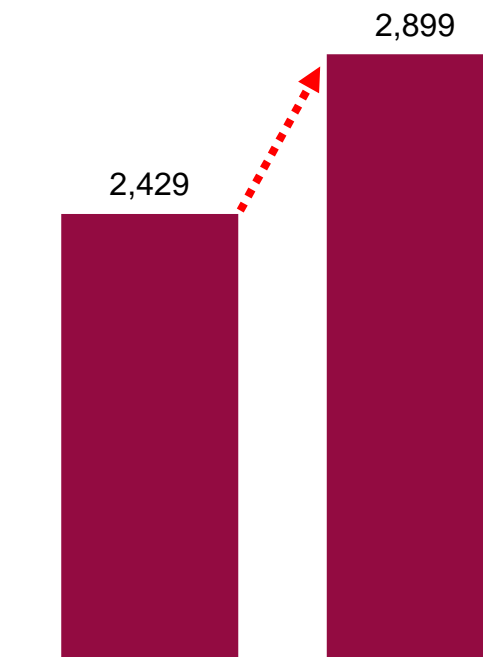
■ 適正にコントロール



FY2016 FY2017 2Q

FCF(百万円)

■ フリーキャッシュフロー増加



FY2016 2Q FY2017 2Q

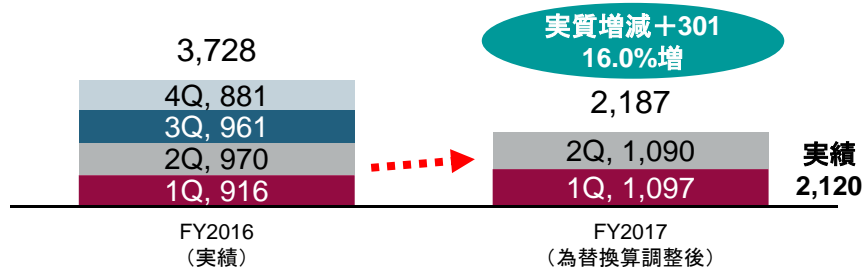


# 2017年12月期上期 4(既存)+2(新規)の販売戦略進捗

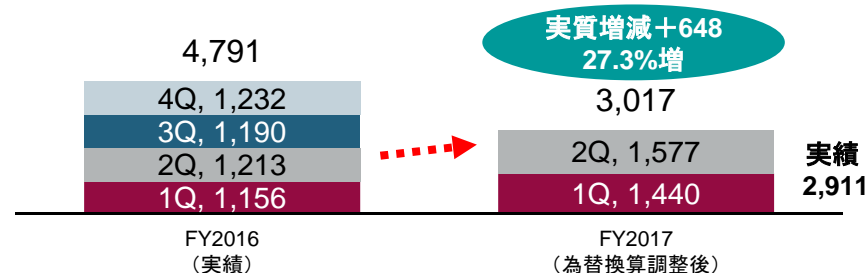
現イニシアティブの進捗は以下の通り。今後のイニシアティブは、PBC事業の買収完了後、新中期経営戦略において見直し予定

(百万円)

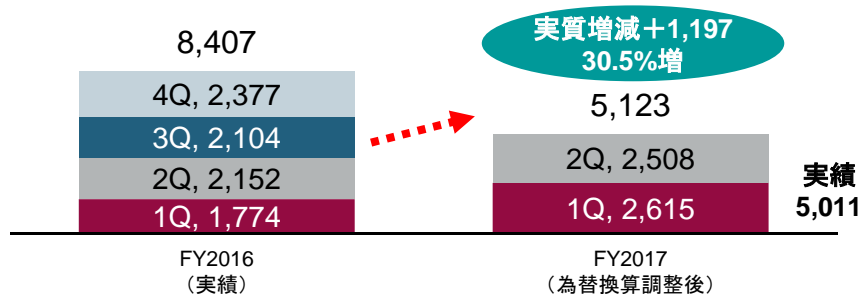
## 海外のお客様



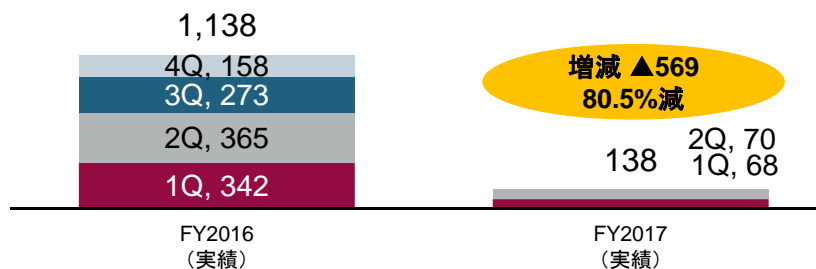
## セラミックボール



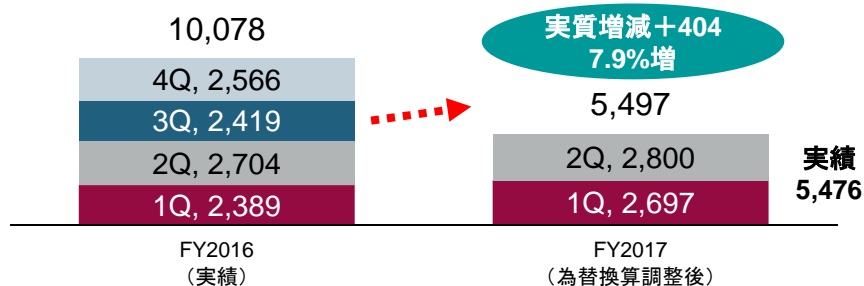
## アジア市場



## 新領域



## 新イニシアティブ (日系ベアリング、非ベアリングメーカーの合算)



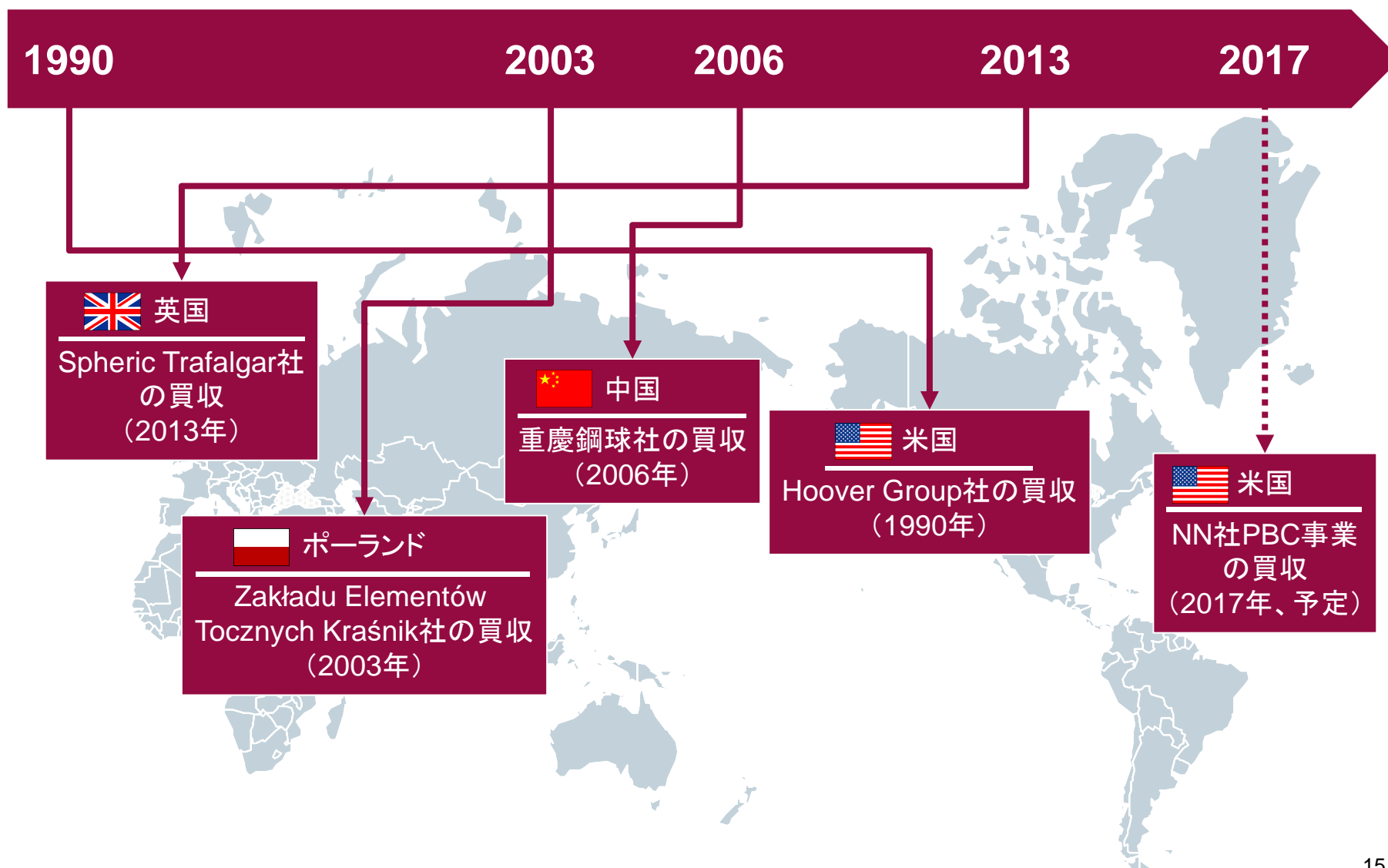


## 2. 米国NN社PBC事業の買収について



# 当社の過去M&Aによる成長戦略の推進

過去においても、M&Aの活用により成長戦略を推進

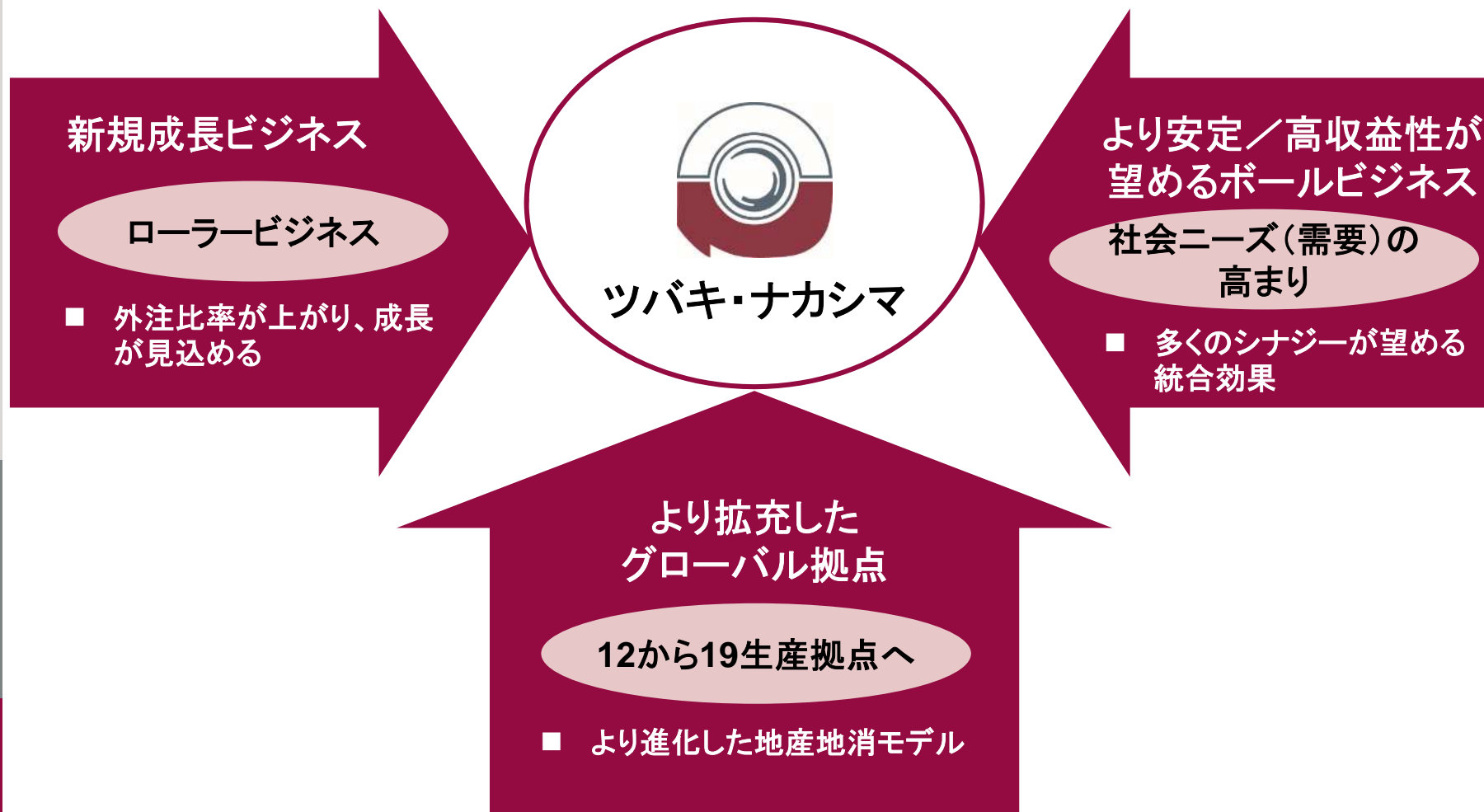






## 本件買収によって当社が手に入れるもの

今後社会インフラの変化に伴い、ますます増加する需要に対して、さらに強化された事業基盤により、飛躍ある成長を目指す





## 本件買収の概要

### 買収価格

- 375百万ドル(約425億円)(※1)
- EV/EBITDA=9.5x (2016年度ベース)(※2)
- (ご参考) 当社のEV/EBITDA=12.6x (2016年度ベース)

### 買収スキーム

- 現金による株式の取得
- 米国で分社化されたPBC事業会社並びにその他地域を統括する欧州PBC事業会社の買収

### 買収資金

- 自己資金及び金融機関からの長期借入を充当

### 買収完了までのスケジュール

- 7月10日: 株式譲渡契約締結
- 2017年12月期第3四半期中(予定)(※3)

### その他

- 回収期間法による投資回収期間: 約10年
- 内部収益率法によるIRR: 約8%

(※1) キャッシュフリー・デットフリー企業価値ベース。為替レートは1\$=113.28円(7月7日時点)

(※2) Normalized EBITDAにより算定しております。

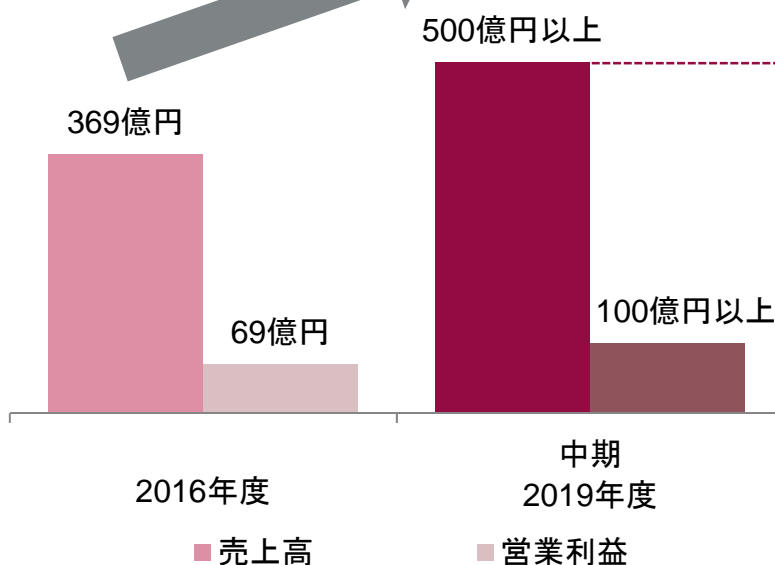
(※3) 規制当局による承認その他譲渡契約に定めるクロージング条件の充足が条件となります



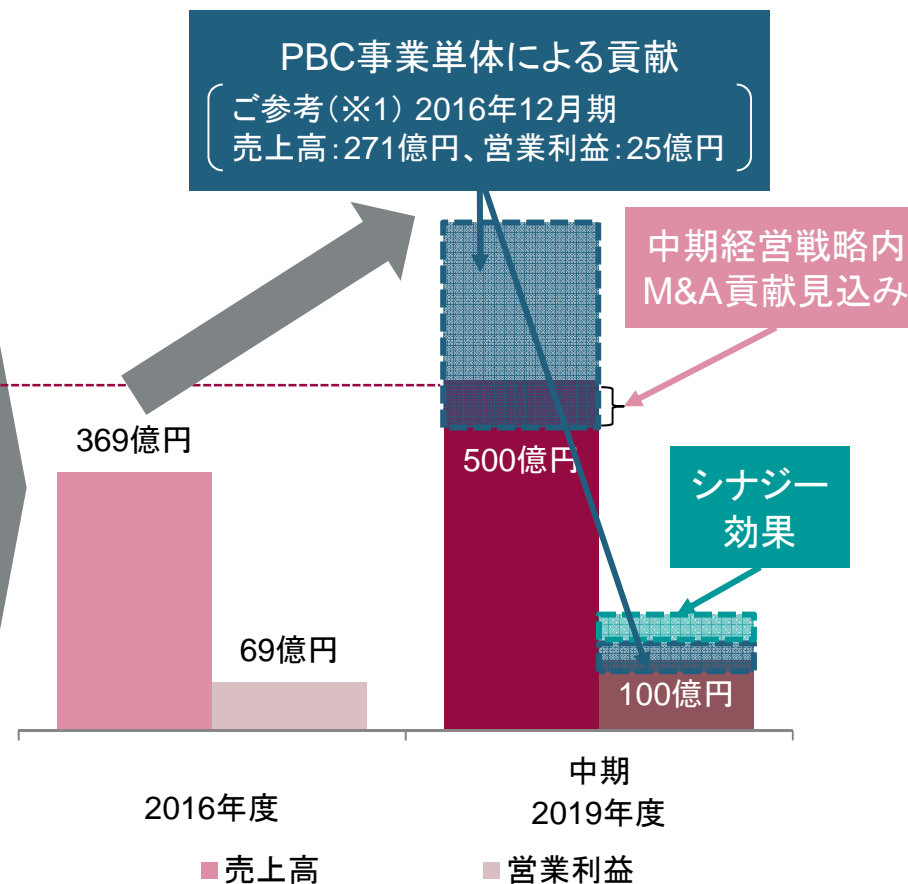
# 一層の利益ある成長に向けての飛躍

本件により、2019年度目標売上高500億円、営業利益100億円の早期達成を見込まれ、売上収益1,000億円に向けた基盤を獲得

## 中期経営戦略(公表時)



## 本件買収完了後イメージ



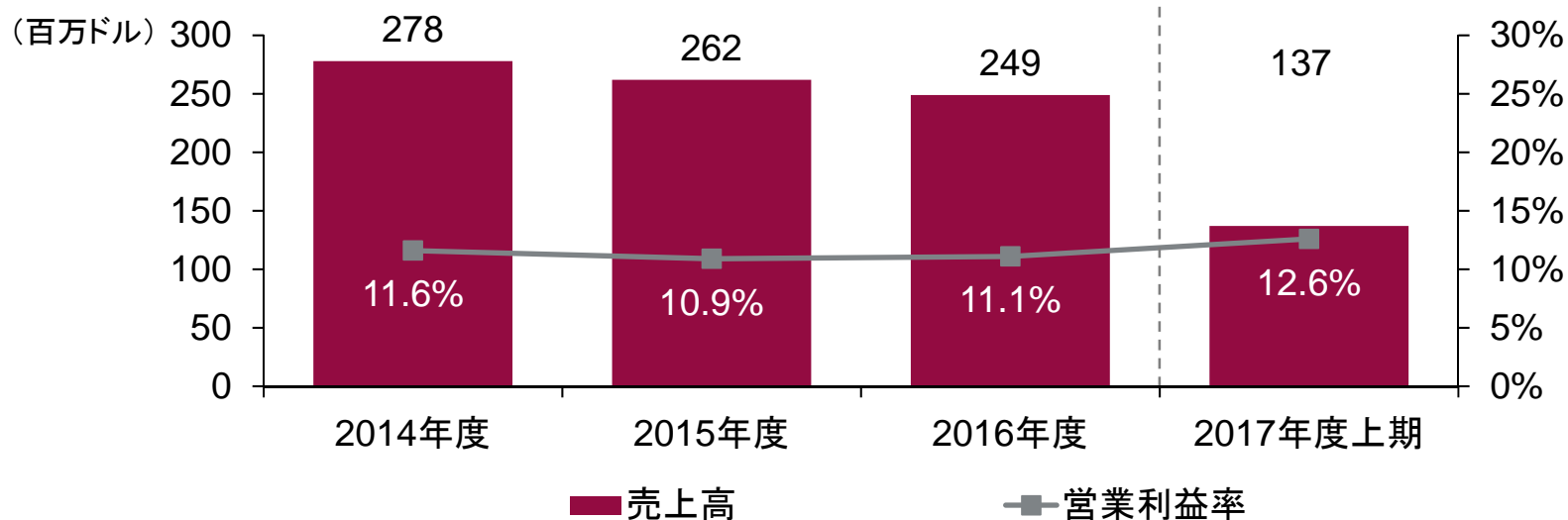
(※1)NN社年次報告(10-K、USGAAP)記載数値を当社決算レート(1\$=108.84円)にて換算



## PBC事業の業績推移

2017年度に入って、業績は回復トレンドに反転

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度 上期
売上高(百万ドル)	278	262	249	137
営業利益(百万ドル)	32	28	27	17
営業利益率	11.6%	10.9%	11.1%	12.6%



(注)

- ・PBC事業の売上高はNN社年次及び四半期報告書(10-K及び10-Q、USGAAP)のセグメント数値によります
- ・PBC事業の営業利益及び営業利益率はNN社年次及び四半期報告書(10-K及び10-Q、USGAAP)セグメント数値に一時費用である“Restructuring and integration”を調整しております

# 本件買収完了後の売上高構成イメージ (2016年度単純合算ベース)



当社とPBC事業は相互に強い補完関係を有する

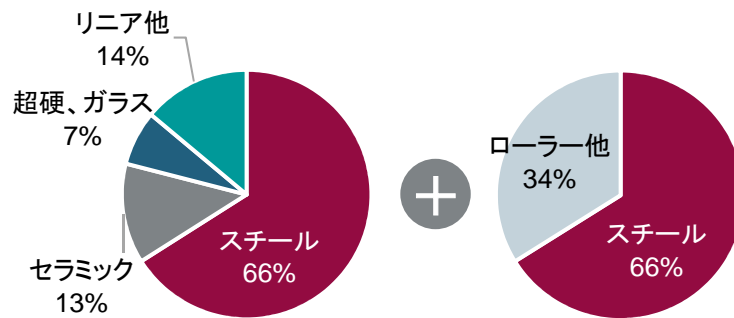
ボールの更なる強化並びにローラーの獲得

北米及び欧州地域における強い補完関係

現状

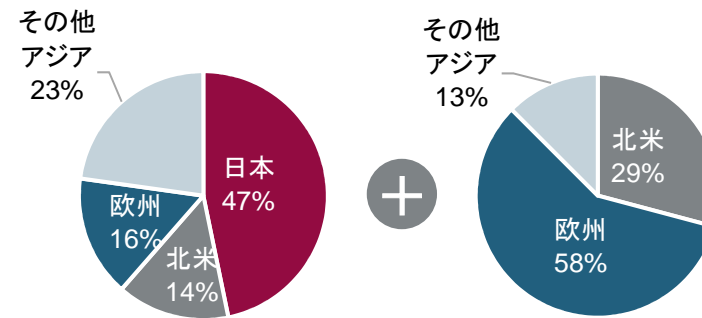
当社(現状)

PBC事業

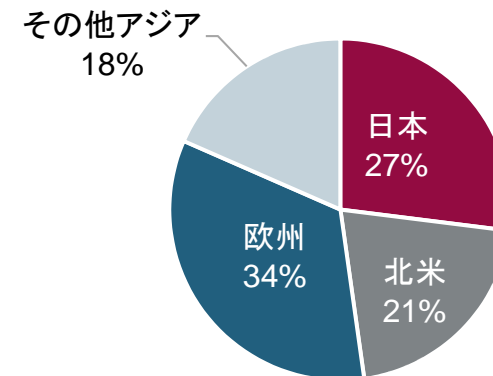
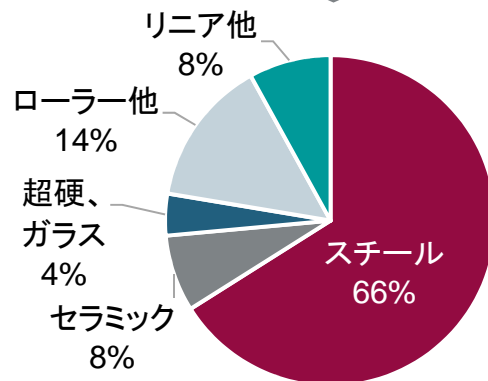


当社(現状)

PBC事業



プロフォーマ  
(単純合算ベース)



(注)PBC数値の為替換算については当社2016年期中平均レート(1\$=108.84円)を使用しております。



# 本件買収完了後のグローバル地産地消モデルの進化

本件による新たな生産拠点の獲得により、今後の各地域における需要を確実に捕捉することが可能に

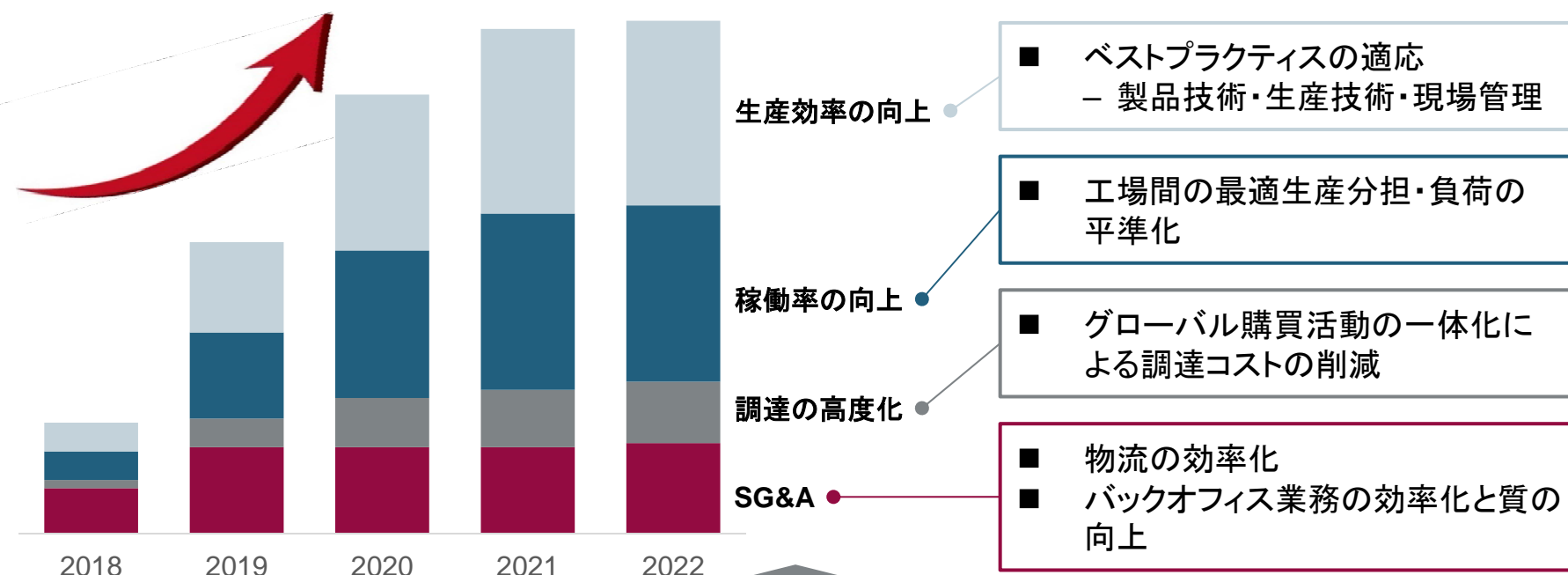




# シナジー創出機会の具現化に向けて

グローバル“Oneオペレーション”によるシナジー効果の確実な刈り取りを目指す

## シナジー創出イメージ



### ISC (Integration and Synergy Committee)

委員長: 高宮CEO、副委員長: Manzagol SVP

- 戦略立案
- 目標設定
- フォローアップ、実行支援



### 適切なグローバルマネジメントコントロール

- グローバルガバナンス
- グローバルコンプライアンス
- グローバル管理会計の再整備

# 免責事項



本プレゼンテーション資料は、本プレゼンテーション資料の日付現在において有効な経済、規制、市場及びその他の条件に基づいており、当社は本プレゼンテーション資料の情報が正確又は完全であることを保証するものではありません。今後の動向が本プレゼンテーション資料に含まれる情報に影響を与える可能性があります。当社は本プレゼンテーション資料に含まれる情報を更新、改訂又は確認する義務を負いません。本プレゼンテーション資料に含まれる情報は、事前に通知することなく変更されることがあり、当該情報の変更が重大なものとなる可能性もあります。本プレゼンテーション資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、公開又は利用することはできません。

本プレゼンテーション資料には、1995年米国私的証券訴訟改革法上の将来予想に関する記述を構成する記載（推定値、予想値、目標値及び計画値を含みます）が含まれております。当該将来予想に関する記述は、将来の業績について当社の経営陣が保証していることを示すものではありません。当社は、将来予想に関する記述を特定するために、「目指す」、「予測する」、「確信する」、「継続する」、「試みる」、「見積もる」、「予期する」、「施策」、「意図する」、「可能性がある」、「計画」、「潜在的な」、「蓋然性」、「企画」、「リスク」、「追求する」、「はずである」、「努力する」、「目標とする」、「予定である」等の用語及びこれらに類似する表現を使用する場合があります。また、将来予想に関する記述は、戦略、計画又は意図に関する議論により特定可能な場合もあります。本プレゼンテーション資料に記載されている将来予想に関する記述は、当社が現在入手可能な情報を勘案した上での、当社の現時点における仮定及び判断に基づくものであり、既知及び未知のリスク、不確実性その他の要因を含んでいます。当該リスク、不確実性その他の要因により、当社の実際の業績又は財務状態が、将来予想に関する記述により表示又は示唆されている将来の業績又は財務状態から大きく乖離する可能性があります。

本件取引に係る対象事業の情報についてはNN社のセグメント情報や未監査の管理会計データを含んでおり、当社は、当該情報の正確性及び適切性を独自に検証しておらず、また、当該情報に関して何らの保証もするものではありません。また、本件取引の実行は、規制当局からの承認が得られることその他譲渡契約に定めるクロージング条件の充足を条件としており、一定の不確実性を含んでおります。

当社以外の会社又は当事者に関連する情報又はそれらにより作成された情報は、一般的に入手可能な情報及び本プレゼンテーション資料で引用されているその他の情報に基づいており、当社は、当該情報の正確性及び適切性を独自に検証しておらず、また、当該情報に関して何らの保証もするものではありません。